

日 時	令和2年10月12日（月） 午前10時00分～正午
場 所	豊橋市役所 東館12階 東122会議室
出席者	別紙のとおり
欠席者	なし
傍聴者	なし

（進行：市民協働推進課長）

- 1 開会
- 2 市民協創部長挨拶
- 3 委嘱状の交付
- 4 委員自己紹介
各委員による自己紹介後、事務局職員による自己紹介

（仮議長：市民協働推進課長）

5 議題

（1）会長及び副会長の選出について

事務局 豊橋市男女共同参画審議会規則第3条を説明

- ・ 審議会には会長及び副会長を各1名置き、委員の互選により定める。
- ・ 委員の互選による選出の結果、以下のように決定

会 長 檜村 愛子 委員

副会長 森 嘉隆 委員

- ・ 議事録については会長・副会長を除く50音順で、今回は江坂委員と近藤委員にお願いする。

（2）令和元年度事業実施報告について

- ・ 資料2-1について事務局から説明

委 員 高校生向けキャリア事業について、受講者が14名ということですが、どのような内容か。公募でしたか。

事務局 公募です。広報で募集しました。出前講座を学校で行うのではなく、セミナーを「ここに」で平日の夜に行い、キャリアカウンセラーの方に「人生設計を考えてみよう」と高校生に対して行いました。

委 員 すごくいい企画だと思います。これを14名だけというのはすごくもったいないという気がしました。豊橋市内の多くの方に聞いてほしい企画だと思います。この時のアンケートを集計したものがあれば見せて欲しいのですがありますか。

事務局 アンケートの集計はありますが、セミナーについてのアンケートになっており、人生設計を立てたものではないです。

委 員 女性向けではなく、男女両方ですか。

事務局 高校生の男女が、今後の進路や働き方などのキャリアについて、結婚や出産などを含めて

考えを深めることを目的としていました。参加者は男子の方が多かった。

委員 今後、男女両方対象の事業実績は、できれば男女の参加者を分けて記載してもらった方が
良い。あと、男性相談の実績が3人というのが寂しい。キャリア支援の方は、男性の参加が
多かったが、全般に男性の当事者意識が醸成されていないと感じる。女性向けの再就職支援
とか女性向けの事業が多いが、是非、男性層、若者そして経営者層とかも含めて、意識を変
えていく事業を検討いただけると良いと思う。

委員 男女共生フェスティバルについてですが、もっといろんな意味で聞けない話をされる方
を招いてほしい。

・資料2-2について事務局から説明

委員 目標値に対して達成できているものと、できていないものとの差が激しい。特に気になっ
た数字が重点目標(2)「子育てにおいて個性を尊重するのがよい」と考える人の割合が81.9%
にもかかわらず、男女平等であると感じる人の割合が9.6%と、考えているが実行できない、
結果に出ない、行動できないということだろうか。これをどう解消するのか。これは数字と
して如実に表れている。

あと、目標値と大きな開きがある。市職員の管理職に占める女性の割合、自治会長に占め
る女性の割合、市男性職員の育児休暇取得率など、開きの大きいところに注力していくべき
ではないかと思う。

ハーモニープランの後半2年は、意識は変わっているが改善されていないというところに
注力していく段階に入ったと思います。

委員 意識が低いと政策も進まないが、高いから政策の実現の潜在性はすごくあるので、もっと
進めるべきであると分析されたということですね。基本目標2、重点目標(1)学校における
女性教員の管理部門への登用について、これは小中高でかなり違うと思います。

事務局 これは、小中だけです。小学校は管理職の方が多くて、中学校は少ない傾向があります。

委員 そこもできれば見ていただききたいです。あと、男性職員の育児休暇取得率100%と掲げ
ていることが素晴らしいと思う。ほかの基本目標2、重点目標(1)の審議会等に占める女性
委員の割合は目標35%ですが、審議会はやりやすいため、50%と掲げるべきです。あとは
意欲をもって高い目標を掲げなければいけない状況です。諸外国のことを考えれば、ここで
市が20%とか25%とか掲げている時点で、消極的すぎます。30%、50%はシンボルのよう
な数字になっているので、25%とかケチな数字ではなくて、高い数字を上げてほしい。あと、
3の(1)女性の就業率について、これは正規・非正規ごとに結果は出ていますか。

事務局 出ていないです。

委員 正規・非正規別は欲しい。

委員 2の(2)地域活動等における参画の促進とありますが、私も去年から、120世帯くらいの
町内で自治会長になったが、現場は面白いです。やはり女性が自治会長とか役員をやると、
声をかけやすくなるのかいろんな声を言うてくる。今、女性の自治会長さんは何人ですか。

事務局 令和元年度だと、校区自治会長51人のうち、1人だけが女性でした。町会長が去年43
2のうち17人が女性でした。今年は校区自治会長の女性は0になってしまいました。

委員 理由は何かあるのでしょうか。

事務局 自治会活動のなかで世帯の代表という形で出てこられると、世帯主の夫の名前になるが、実働は妻というのはよくある。地域活動を行っていく中で、人材を見つける一番いい方法は、子ども会で母親が関わるので、そこでいい人を見つけて大事に育てていく、町内の会計からとか段階を踏んでいくと良いですよとお伝えした。

委員 世帯主がというのはすごく分かります。妻の名前を書こうとしたら、「いや違います。世帯主ですから。」と言われます。「でも、妻が出ていますよ。」と言っても、「世帯主で」といわれる。

委員 研修会等で是非体験談とか話していただいて、そういった町が増えていったらいいと思います。

委員 学校でも今はだいぶ変わってきていますが、昔はクラスの級長は男で副が女みたいに、自動的になっていた。PTAでも会長はほしい父親だが、会議に出てくるのはみんな母親である。だから会議の実出席者に男性の数が増えるということが実は大事である。

委員 自治会に補助金出すとか、女性がトップに立っている自治会にインセンティブがあると動きやすいのではないかと。補助金は無理ですか。

事務局 補助金は活動交付金というのがあります。ベースになっているのが広報とよはしの配布する世帯であったり、ゴミのステーションを持っている個所数であったりしますが、算出のベースを改変していくということで、簡単ではないですが、そういう手法もあるかと思えます。他の市町村では5万円ぐらいのインセンティブがあるところもあります。

委員 子育て支援の応援登録数について質問したいのですが、豊橋市の子育て支援企業登録数は自己申告ですか。表彰されるという制度を持っているということですが、どのような申告をして表彰されるのですか。

事務局 子育て応援企業の条件は例えば子育ての制度が充実しているとか、お店や会社の中に子育てスペースや子どもさんを遊ばせるスペース、おむつを交換するスペースがあるといった基準があり、それをクリアされていたら登録するという制度です。

委員 どういったところが表彰されるのですか。

事務局 応募された中から取組がすばらしいものについて表彰をさせていただいています。

委員 毎年行っていますか。

事務局 徐々に数が増えてきて、現在登録数は370です。表彰されると会社の紹介をこども未来館で行っています。また、ホームページでも紹介しています。

委員 例えば大学に配っていくと豊橋に良い人材が集まるということに繋がる。働きやすいところだなと。

委員 私の会社も子育て応援企業の取得をしておりますが、子育て応援の範囲が広いのでどの分野で申請を取ったのか。小学校の見学を受け入れるとかそういう教育への協力でも確か取れるはずですが。働き方にかかわらず。このジャンルが広いので女性の働き方ととっているのか、それとも男性の育休という男性側のことで取っているのか、それとも地域貢献、見学の受け入れとかととっているのかという、どの分野で取れているのかを細かく見ていく段階に入ったと思います。

委員 中小企業に関して言わせて頂ければ、実はもう中小企業は、女性の働き無くして企業は存在しない。しかし社長さんたちは、一部の方を除いて、まだ古い考えを持っているという厳

しい現実です。とりあえずそこに関して働き方改革を今行っているが、法律が絡むとやはり仕方ないなど動くのが悲しい性です。まだまだ自発的というのは弱いところが現実です。目先のことで頭がいっぱいということです。自治体が察知してあげれば動くと思います。法律もできており、そろそろ動かなくてはならないところです。

委員 名古屋市には子育て支援審査会というのがあり、企業への助成金制度があることから、助成金をもってさらにステップアップをして、それが成功すると一冊の本を作成し、こういうのをしていますというを紹介している。登録制度があるが、登録して終わりではなくてさらにそこからもう一歩行きましょうと進めている。東京もそのようですが。自治体によってもいろいろあるが、地道ですけど、名古屋市でも豊橋市でも、一番小回りのきく自治体が企業に働きかけをしていくことは大きいし、会社は良い人を取りたいのが事実です。給料よりも働きやすい会社が良いという考えが増えてきており、市役所や大学が口コミで、地道なやり方ですがそういう形の積み重ねだと思っております。

委員 教育現場ではどうですか。

委員 管理職もそうですが、急に女性登用が伸びました。現場は女性の方が多いです。特に小学校は半分以上が女性です。それでも管理職になると子育てしながら仕事も遅くまでやらなければならない。なかなか教育改革が進まないため管理職になりたくないという女性もたくさんいる。だから教育委員会も困っていると思いますが、それでも市役所に比べれば登用が進んでいるので、やはり半々は欲しいなというのが現実です。小学校は校長、教頭、教務、校務4人の内の半々を占める割合が多くなってきました。ただ、中学校では一人二人の学校も多いので、増やしていかなければいけない。

委員 女性が校長とかトップになると何かいいことが、産休・育休が増えるとか何かメリットはありますか？

委員 全然ないです。学校は早いうちから育休もすごく恵まれているので、中には3年育休取ると「えっ！」て、言いたい人もいるでしょうが、今は5年6年続けて休む教員が多くて、本人の方がこんなに長く休んで復帰できるかどうかと思うぐらいです。本当に受け入れ体制が進んでいるので教員は育休に関しては恵まれている。ただし、男の人は両方教員の場合、男性が育休を取るという人はほとんどいません。交代で取るという人も併せて。

委員 就労者数とか大きな数字ではなくて、それぞれの職域のなかで管理職の割合とか、正規・非正規とか、そこを見ていく段階に入っていくのは間違いない。男性が主で、女性はどちらかというパートタイムで補佐的・サブ的ポジションが前提になっている。おっしゃられたとおり、男女両方とも同じ職場だったらどちらが育休を取るという割合が二分の一というのがベストです。だからそういうところを見ていかなければならない。世帯主の話もそうですが、女性は出世したくないという、たぶん男性もいます。だから女性が出世したいが活躍できていないという裏には、出世したくない男も出世争いに巻き込まれることが背後にある。

委員 私は、育児休暇は取っていないが育児時短という制度を使っていた。それも子どもが小学校の4年生の4月までと会社で決められており、使うことで給料が減るため、なかなか使えない。時短を使って早く帰るということは、女性の方が理解しやすいと思うが、男の人はなかなか理解してくれない。また、あいつ早く帰ると思われるが、いちいち説明するのも面倒。仕事と家事・育児を両立させなければということもあり、今、現場で働くという形をと

っています。家に帰れば、育児が目標値 100 分に対して 87 分という基準値がありますが、それをはるかに超える数字で行っています。両立はなかなか難しいということがあって悩んでいます。

自治会のことでいうと、私の校区自治会は伝統的に男の人ばかり。役員も全員男の人。PTAは会長以下全員が1年で交代ですから、何か改善しようと思っても改善できません。この間、次期委員を選定するに当たって、男・女と分けて書いてあり、どういうことか質問したら、男の方は長がつくような役に選ばれる側で、女の人の方は何ですかと聞いたら、学年委員で、授業参観等で進行するような役割を担う人だと聞きました。当初からそうっており、おそらく女の人が長に就くのはあり得ない状況。それを変えるのはなかなか難しいことだなと感じています。

委員 PTAの会長もやはり男性が多いですか。

委員 100%男性です。

委員 PTAの実働が女性だと、平日に会議を入れたりする。そうすると男性だと仕事で参加しにくい。お手上げです。そういうところへ出てくる女性は専業主婦か自営・自由業の人であり、会社勤めの人には仕事を休まなくてはいけない。

(3) 令和2年度事業計画について

・資料3に基づき、事務局から説明。

委員 女性キャリアアップ応援補助金の申し込み状況はどうですか。

事務局 スタートしており、問い合わせが数件ありました。これから資格取得にチャレンジしていきたいという方が対象で、申請はまだです。

委員 広報が大事である。

委員 国家資格を対象としているが、民間資格に拡大するのは難しいのか。

事務局 検討はしています。申し込みが少ない状況を見ながら検討をしているところです。ハローワークさんが行っている支援との隙間を市で実施しようと思っているものです。ハローワークさんは民間資格も対象です。

委員 10月22日の開催のとはよし女性応援プロジェクトは、良い企画だと思いますが、男女共同参画セミナーというより純粋にスキルアップセミナーになっているので、共同参画の枠組みで行う事業ではないのかなと、少し違和感がある。

事務局 これにつきましては、女性の働きやすさということを考える上でどんなことが必要かという事を運営のメンバーで話し合い、ちょうどテレワークにトライする時期でしたので、企画しました。やはり、コミュニケーションは男性も女性も密にしていかなければいけない。オンライン上でハラスメントがあるという話がありましたので、そういった意味では女性の視点を入れながらご指導いただいこうと思っております。

委員 そういったことをチラシ等に打ち出すと良いと思う。テレワーク時代のコミュニケーションだと、それこそ営業研修の1つに入ってしまう。例えばテレワーク時代での女性のモチベーションアップやハラスメント防止などにすれば共同参画の部署で行うイベントになると思う。

事務局 以後考えていきたいと思えます。

委員 教育現場はすごく大事だと思います。性暴力など豊橋では課題があるのか、子どもたちにそういう方面の教育はどうか、あと、LGBTの問題とかもそうですが。

委員 私は小学校が長いので、小学校ではそれほどまだ取り上げるところまでいきませんが、中学校では制服について女性のズボンが認められ、変わってきたなと思います。小学生だとほとんど男女変わらずに生活してきていますのでそこまで感じる事はないと思いますが、やはり子どもですから何でもかんでも思ったことを言うので相手を傷つけることもありますから、そういう教育も必要だと思います。

委員 私は現在あまり学校現場には関わっていませんが、以前関わっていた時や時々携わる中で感じたことは、子どもたちがすごく生き辛さを抱えているということです。子どもの支援をしている中で、子どもたちはすごく力があるのに子どもが本来持っている力を発揮できない環境にあるとすごく感じています。これはなかなか変わらないですが、教育現場が変わったら一番良いのではないかと思っています。学校の先生が男女50%50%のモデルを見せていけば、子どもたちが大人になった時には、普通に次は自治会役員みたいに意識が変わってくるのかなと思います。でもその意識を変えるのがすごく難しい。

委員 生徒会長に女性になったりする学校が増えていて、やはり力がある女子が多い、今特に中学生くらいだと弁もたつし考えもすごく大人っぽくなっているのも、私がやるわという子どもたくさんいるのもすごくその辺は楽しみです。

委員 でも、校長先生は男の人だったよね、みたいなイメージが固まっている。そんな気は少ししています。

委員 自治会だけではなくて政治の世界でも、女の人が活躍するモデルをもう少し子どもたちが見ることができたら違ってくるのかなと思います。

委員 少しずれてしまうかもしれないですが、町内に引っ越してみえる方に、離婚されてひとり親、母親の実家に入る、たぶん確実にそういう家庭が増えていると思いますが、子どもたちはそういうのをどのように受け止めているのか。それでも明るくみんなと過ごしています。

委員 今、子どもたちを見ていますが、預けているお母さんはやはり一人で働いている方が多く、とてもパワーを持ってらっしゃいます。今の母親は、ひとり親でも頑張っている方が多いというのは、教育現場の時よりも子育て支援事業で本当に実感しています。ひとり親同士が再婚するというのも多いです。子どもたちも親がいないからということも平然と言いますし、どういうふうに母親が子どもたちに話しているかわかりませんが、子どもたちはこちらが心配するよりも元気で、一生懸命母親も育てており、土日は遊びに連れて行くということも多々やっているみたいです。頑張っているなというのを子育て支援事業へ行って実感しました。

(4) 男女共同参画に関する市民意識調査の結果について

・資料4に基づき、事務局が説明

委員 回答者の年齢はどうか、どれくらいの年齢の方が多かったですか。

事務局 20歳以上の方を対象に年台ごとで抽出しました。若い年齢層からの回答は少なかったです。多くて70代以上と60代の方が20%を超えており、20代は12.4%でした。男女別の集計も行っています。

委員 年代での分析はしていますか。特に差はありますか。

事務局 あります。年代によって、意識は本当にはっきり出ています。年配の方が保守的であり、一番意識が高いのが子育て世代の方で、問題に直面していると思います。

委員 それが如実に出ているのが、場面分野別で、学校が過半数平等である、地域活動が平等であるとの結果が出ており、これまでの市の成果が出ていると思う。学校や地域活動は市が直接手を入れやすいところである。いよいよ残る関門が職場や政治、しきたりや習慣ということになる。だからハーモニープランの後半戦は職場と政治としきたりにどう手を入れていくかというのが明らかに出ている。

委員 調査することの意味は、正当性の担保。何故その政策なのかということであり、すごくきれいにできていて良い。

事務局 各政党が候補者を出すときになるべく男女平等にしろという法律はできているので、そういうことを啓発するというのは我々でも出来ると思います。

委員 ここですごく問題になっているのは、子育ての時の労働の問題ですが、イクボスを育てる、私、田原市で研修を行いました。そういう講座とかそういう意識はありますか。

事務局 市でもイクボスの研修を行いました。やはり上司の意識改革がないと、休みが取りにくいとか、子育てへの意識が進んでいない面がありますので、そちらの啓発も行っていきたいと思っています。

事務局 本日は長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。

令和2年12月23日

議事録署名者

江坂 雅世

近藤 京子

令和2年度 第1回豊橋市男女共同参画審議会 出席者名簿

No	氏名	選任区分	出欠
1	えさか まきよ 江坂 雅世	豊橋女性団体連絡会	○
2	かしむら あいこ 榎村 愛子	愛知大学文学部人文社会学科 教授	○
3	こんどう きょうこ 近藤 京子	豊橋人権擁護委員	○
4	ながさか ひでき 長坂 英樹	公募	○
5	ばん ともたろう 伴 智太郎	豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会 ブロック役員	○
6	みやざわ さちこ 宮澤 佐知子	豊橋商工会議所女性会 会長	○
7	むらい ゆういちろう 村井 裕一郎	公募	○
8	もり よしたか 森 嘉隆	JA 豊橋 常務理事	○

審議会出席人数 8名

<事務局>

市民協働推進課 課長 今泉 ひろ子
主幹 竹内 泰子
課長補佐 大漣 伸一
主査 唐笠 宏司
主事 峠田 彩香